



北米ホーリネス教団
オレンジ郡
キリスト教会
「週報」

2015年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 聖書日課に励もう
3. 祈り会に参加しよう
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am
 コヒー・アワー : 日曜日 10:45~11:15am
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm
 みふみ会 : 水曜日 10am
 定例祈禱会 : 水曜日 7:30pm
 早天祈禱会 : 土曜日 7am
 家庭集会 : 各地区に2箇所
 牧師 : 杉村 幸 (日本語部)
 : 益田デーロ (英語部)
 電話 : (714) 827-6244 (教会)
 : (714) 527-1456 (牧師館)
 E-Mail : sugimura1950@gmail.com
 教会ホームページ : www.occc.org
 教会所在地 : 4872 Bishop St.
 Cypress, CA 90630



◎石叫 ■ 「フィリピン国民に告ぐ」

太平洋戦争末期、フィリピンでは日本軍によって十万人の市民が殺されたといいますが、日本への憎悪、それがフィリピン人の感情でした。一九四八年八月、フィリピン政府は日本兵のBC級戦犯裁判を行い、百三十七人に有罪判決を下します。うち七十九名は死刑でした。同年、キリノ大統領はまず二人を処刑します。死刑執行の権限は大統領にあります。大統領自身、妻と3人の子供たちと親族5人を日本兵によって無慈悲に殺されていたのです。しかし、死刑執行命令を下したのち、カトリック信者であった大統領の良心に葛藤が生じました。「赦さない。赦さないなら、あなたがたの父も赦されぬ」（マタイ六・15）。このキリストの言葉が心に迫ったのだらうと思えます。それから二年あまり処刑は行なわれませんでした。国民感情がそれを赦さなかったのか、一九五一年一月、大統領は十四人の死刑執行にサインします。同時に、大統領は日本に対して謝罪と賠償の要求もしました。しかし、大統領は「憎しみと赦し」との狭間で、ついに恩赦を出したのです。刑を免除する大赦は議会を通りません。大統領権限で出せるのは減刑の特赦でした。一九五三年、キリノ大統領は、妻の親族の反対と国民感情を押し切って、死刑囚は終身刑に、残りは釈放し、日本に送還したのです。さらに、大統領任期が切れる二日前に、もう一度特赦を出して、巣鴨プリズンに収容されていた終身刑の囚人も釈放しました。大統領は、日本からの賠償なしに赦したのです。「フィリピンは日本と近い。いつか日本と友になる日が来る。赦さなければ、我々は前に進めない」。それが大統領の決断の言葉でした。赦さなければ、いつまでも過去に縛られたままになるのです。もちろん、国民の非難と反発はさまざまいものでした。キリノ氏は再選を狙いましたが、大敗でした。そして2年後、キリノ氏は、六十五歳で癌で病死します。しかし、憎悪の連鎖は断ち切らねばならないことを国民に訴えたキリノ氏のキリスト信仰は信仰者たちの心に残りました。後年、あれほど反発していた国民の間から、大統領の決断は正しかったことを認める人たちが出てきたのです。「ずっと憎しみを持ち続けたままでいいのか」と煩悶し、「日本人もまた被害者だ」と考えるに至った人、彼らは憎しみを越えて「赦す」ことを選んだのです（二〇一四年十月『Quarterly Agora』掲載の川端光生氏の投稿）。

キリノ大統領のキリスト者としても勇断に心からの敬意を表したい。それは何よりも、キリストの愛から来ている。お互いの平和は赦しに始まるのだから。

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」
 オレンジ郡キリスト教会は1977年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は1921年に創立され、現在は日英両語合わせますと2000名を越える会員になります。
 私たちの教会は18世紀に、英国で始まったジョンウエスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、3世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白と致します。

